

磯本航世 九州工業大学大学院 博士後期課程

九州工業大学大学院 生命体工学研究科卒

博士前期課程の 2 年間を振り返ると、入学時に描いていた成長予測を大きく上回る飛躍を遂げることができました。

当初は、最先端の AI やロボット工学の技術を習得し、エンジニアとしてのキャリアを着実に積み上げることがを主眼として入学しました。しかし、研究室での多様な活動を通じて視野は大きく広がりました。国際学会での研究発表による学術的成長に加え、ロボット競技会でのチームリーダー経験やビジネスコンテストでの事業提案など、幅広い経験を積むことができました。これらの経験を通じて、私は単なる技術者にとどまらず、社会課題の解決に貢献できる研究者としての素養を培いました。

研究活動では、ドイツやマレーシアでの国際学会発表が特に貴重でした。自身の成果を世界の研究者の前で発表し、建設的なフィードバックを得ることで、研究の質を高めることができました。また、異なる文化的背景を持つ研究者との交流を通じ、グローバルな視点から研究にアプローチする重要性を学びました。

博士前期課程 1 年目のロボット競技会(RoboCup@Home)でのチームリーダー経験は、私の成長における大きな転機でした。開発経験者が多くないチームを率い、本番から逆算した開発方針の立案、メンバーの特性を踏まえたタスク配分、明確なマイルストーン設定による進捗管理を徹底し、期限内に必要な機能を実装しました。その結果、世界の有名大学が参加する中で 2 位を獲得しました。さらにこの経験を土台として、2025 年には世界大会で優勝を達成し、私にとって揺るぎない到達点となりました。

博士後期課程への進学を決意する契機となったのが、ビジネスコンテストへの参加です。博士前期課程 1 年次の学内コンテストでは、介護施設向けサービスロボットの事業化プランを提案し、最優秀賞を受賞しました。以後、九州規模・全国規模のコンテストへ挑戦の場を広げ、研究成果の社会実装に向けた実践的知見を獲得しました。この過程で、アカデミアの成果を社会につなぐ重要性と、そのために必要な事業化の視点を深く学びました。

これらの経験を踏まえ、博士後期課程では少子高齢化社会における人とロボットの協働の在り方を探究します。とりわけ、大学での研究成果を実社会で活用可能なソリューションへと展開するための方法論を確立し、研究の社会実装を見据えた取り組みを通じて、アカデミアと産業界の架け橋となる実業家を志します。

最後に、これから進路を考える学生へ。初期の目標にとらわれすぎず、さまざまな機会に積極的に挑戦することを勧めます。予期せぬ経験が、結果として当初の目標達成への近道となることもあります。失敗を恐れず、広い視野で挑戦を続けることが、自身の可能性を大きく広げる鍵となるでしょう。